

たしぼ

編集・発行
宮城県宮城野高等学校
同窓会事務局
〒983-0021
仙台市宮城野区田子2-36-1
ホームページ
<http://www.miyagino.org>
E-mail
web@miyagino.org

第7号
2004年2月28日発行
題字：田代ひとみ先生

過去と向き合い『自分』を見出す

会長 田畑 洋行
(宮城県気仙沼高等学校勤務)



昨秋、部活の遠征で青森に行った時のことだ。青森から帰りの高速道路、上りのサービ

レジをこなし、他の店員にアドバイスをし、忙しく働きまわっていた。ただ、この時は話しかけなかった。ヨレヨレのトレーナーを着て無精ひげにマフラーを巻き、寒い日だというのにサンダル姿の自分があまりにもみすぼらしかったので。

入った時、ある女性3人組がふと目に留まる。そのうちの1人と目が合った瞬間、一気に記憶が甦ってきた。彼女達は私の同級生で、高校の頃からいつも3人仲良くしていた(と私は思っている)。その日も揃って知人の家に遊びに行っていたとのこと。卒業から約6年、服装や見た目は更に洗練されすっかり社会人になっていた。しかし、久しぶりに話した感覚は昔のまま。そして3人相変わらず一緒にいる姿に不思議と嬉しい気持ちになった。

出会いというのは嬉しいものだ。それだけでなく懐かしい顔と出会うことで自分が再確認できる気がする。過去に縛られるのではなく、時々自分の原点を確認することは必要だと思う。自分は昔、どんな環境で育てられてきて、どんな遊びをして、どんなことを考えていて、どんなことがしたくて、どんな人間と付き合ってきたのか。「確固たる自分」を持つには過去は切っても切り離せない。

「自由そして自立」への期待

この3月には、7回生が巣立っていく。そして、平成17年に行われる創立10周年記念式典の準備が着々と進みつつある。時の流れと共に、宮城野高校の歴史が一步一步形成されつつある。今や新設高校であるとのイメージを払拭しなければならぬ時期にきているのである。

卒業生有志による Miyagi No Project のメンバーをはじめ卒業生諸君がサマーセミナー、進路講演会や土曜ゼミナールの講師等で、後輩の発展を願い、全面的に協力していただいていることに感謝いたします。

宮城野高校は自由という校風のもと、自立心の育成を目指しているが、生徒一人一人が本当にそう意識し、行動しているだろうか。本校1回生M氏が学校新聞第1号に、「無意識のうちに身勝手という名の自由を盾に、いつの間にか自分を見失っている。私たちの得た自由を忘れてしまっている」と述べている。自由という名のもとでの、自己管理、自己責任の重要さは、開校当時から現在まで引き続いていく大きな課題であることを実感している。

社会発展の基盤としての高校教育の大切さを認識するとともに、諸君のあとに続く人材の育成に微力ながら力を注いでいきたい。

同窓生諸君、社会人として、実社会で同僚から信頼され、胸を張って仕事をしておられますか。上級学校で将来の目標に向かって頑張っ



校長 高橋 雅武

将来の自分／宮 あの人は今… 「教育実習をして 過去と向き合い『自分』を見出す

柴田 ちあき (情報科・2回生)



私は新しくできた科目「情報」の教育実習生として、久しぶりに宮城野高校に戻ってきました。通学路を歩きながら、なぜか高校生活がずいぶんと昔のこの様に感じました。

実習をして、予想や計画通りに出来たことも出来なかつたこともありましたが、あがらずに喋り、授業できたことは自分でも驚きでしたが、声の出し方や喋り方に最後まで苦労しました。授業内容については、「作る」授業だった為、生徒に興味を持って取り組んでもらえた様で良かったです。授業と同じくらい重要なのが、生徒とのコミュニケーションです。最初は私もかなり苦労しましたが、自分から休み時間に話しかけてみたりしました。また、授業内容が良ければ、自然と

生徒から話しかけてくるし、信頼関係も生まれてくるようです。今になれば、もつと生徒達と色々なことを話したかったな、とも思いません。

実習中に、宮城野高校や生徒達について改めて気づいたり、考えたことがあります。私たちの頃と比べ、生徒は早い段階から進路について真剣に考えていて、とても良いことだと思います。また一方で、自校について自由に発言・討論できる雰囲気になくなってきているのでは？とも思いました。一部の生徒だけではない多くの生徒に、もっと自分の学校について興味を持ち、より良く変えていってもらいたいです。

実習を終え宮城野高校を去るとき、不思議な感覚を覚えました。ずっと自分は宮城野高校に通っていて、当たり前のように明日も明後日もこの道を通るような気がしたのです。きっと教育実習のことだけを考え、実習生活にどっぷりとはまっつて毎日学校に通う、充実した期間だったからなのでしょう。

加藤 沙和子 (美術科・3回生)



昨年の6月～7月の3週間、宮城野高校で教育実習をさせていただきました。教員の仕事は体力・時間との勝負！というのが実習生として私の得た実感です。あれもこれもと走り回っているうちに、1日はたちまち過ぎました。短期間でしたが再び宮城野高校に通い、私なりに学校と高校生について感じたことを書かせていただきます。

私が実習中に所属した21HR・美術科クラスは、和気あいあいと暖かく、とても団結しているようでした。オープンホーム制から学科ごとの編成になったことで、美術科はクラスが3年間、持ち上がりになりました。

「最初はいやだと思っただけ、今はみんな仲良しなので3年間同じクラスでうれしい。」と、話してくれた生徒を思い出します。私は、オープン制が気に入っていました。

が、クラスとして濃密に団結する充実感を、味わうのもステキだなあと感じました。

また、高校2年生も、大学4年生も、見た目はほとんど変わりがないとも思いました。ただやはり、授業やそれ以外の時間で話をしてみると、違いを感じてしまいます。興味を持っていく内容、話し方、考え方、そして描き方など、良い意味で若々しく、勢いがありました。しかし、その若さを「未熟」だとマイナスにとらえるばかり、生かされていけないとも感じたのです。ある「素描」の授業中、上手く描くことを意識しすぎて、画面が真っ白のまま時間が過ぎる生徒の姿が印象的でした。

高等学校の教育は、「社会に出る前段階」と解釈されることが多くあります。大学の受験準備も重なって、高校生が与えられるカリキュラムは膨大ですが、その中でどうにか、生徒一人一人が等身大で行動・発言できる内容がほしい。と、私は考えました。教育実習を体験しなければ思いもしなかつたでしょう。貴重な3週間でした。

綿 祐次郎 (公民科・3回生)



皆さんお久しぶりでございます。宮城野高校3回生、綿祐次郎です。私昨年6月に母校である宮城野高校にて教育実習をさせていただいたので、この時のことを徒然なるままに書いてみたいと思います。

まず、今回の実習生は総勢8人だったのですが私その中で唯一の男でした。ということとはつまり「綿、パン買ってこい」ということです。ウソですね。皆さんとてもやさしくしてくれました。みんなの協力で有意義な実習ができたと思います。

ちなみに今回私は社会科「公民」の実習生としてお邪魔させていただきました。受験を控えた3年生の担当ということで大変なプレッシャーでした。ホームは13ホームの担当でした。授業の担当がなく男子生徒は4

人だけ、打ち解けるのが大変かと思つたのですが、生徒と一緒に数学の授業にでたり体育科の先生方にお願ひして体育の授業に参加させていただくことで(すっかり体育の実習生のイメージがついてしまいました)2週間という短い期間になんとか打ち解けることができました。

後半の1週間は生徒ともしっかり打ち解け現在の宮城野高校生とたくさん話しをするのができました。私の頃と比べると勉強の意識が高くすばらしいと思いましたが、その反面おとなしいという印象を受けました。3年間しかない高校生活、失敗を恐れずにもっとガムシヤラでいいんじゃないか。失敗ばかりだった私もその失敗を活かし、ヨットで部分的に日本一になることができました。みんながんばれ！

最後になりましたが、こんな私を実習生として受け入れご指導くださった先生方、職員の皆さん、生徒の皆さん、宮城野高校本当にありがとうございました。教師つてすばらしい。

竹 みなか (英語科・3回生)



宮城野高校を卒業して3年半、ついこの間まで宮城野にいた私が、実習生として教壇に立つというのには不思議な体験でした。高校時代に教えて頂いた先生方もいらつしやる中で、自分が実習生として「先生」と呼ばれる立場にいたことが、少し気恥ずかしかったです。同級生の弟さん、妹さんも多く、兄弟で宮城野を選ぶというパターンが多さに、宮城野がすごく魅力的な高校であることを再確認しました。

授業に関しては、3クラスの英語の授業を受け持ちました。多い日には、1日に3回も授業があり、前日は次の日の授業準備に追われてしまい寝る間もほとんど無いほど忙しい日々でした。どうすれば分かりやすいかと自分なりに一生懸命考えたつもりですが、なか

なかに教えるということには難しく、改善点が沢山あります。それでも一部の方から分かりやすかったという感想を頂き、胸がいつぱいになりました。HRは27HR担当でした。先生も、生徒の皆さんも皆いい方ばかりでした。LHRや掃除の時間などに生徒の皆さんと話をする機会がありました。まだまだ未熟者の私を、多くの面で支えて頂き、大変感謝しております。朝や帰りのHRを任されて進めていく際には、事務連絡を忘れないことで精一杯で、雑談を混ぜるといふ余裕はなかなか持てませんでした。「ちょっと固すぎかな」とは感じていたのですが、難しかったです。最終日の挨拶で、やっと雑談らしいことを話すことができました。まさか花束を頂けるとは思っていませんでした。本当に嬉しかったです。

こんな私ですが、お世話になった先生方、生徒の皆さん、実習生の皆さんありがとうございます。高校、そして大学生になって更に宮城野でいい経験ができたことを誇りに思います。

あの人は今…/「働くこと」について

「教育実習をしてみて」

過去と…/自由…

～あの人は今2004～



柿澤 武 (1回生)
映画監督

取材班(以下取)「このコー

ナーは宮城野高校卒業生であの人は今何してんだべ?という人と話してしまおうという特別企画。記念すべき第1回目のゲストはこの方ノ1回生の柿澤武(以下柿)です。

取 柿 「ども。」

「早速だけど、柿澤は宮城野高校卒業後、武蔵野美術大学で映像を学び、卒業した今も仙台で懲りずに自主映画の制作をしてんだってね?」

取 柿 「こ、懲りずに?」

「そして今度の3月4、5、6、7日にせんだい演劇工房10ボックスで映画の上映会すんだって?確か短編集と長編映画の2本立てで、長編が92分1カットとかいうの。92分1カット

とかつてはつきり言つてバカだよな?」

取 柿 「…。」

「でもそういう心意気は買うよ、俺は。やっぱ人と違う事した方が人生面白いよね?短編も頑張ったじゃん。在仙の演劇人総動員みたいな。ってこの人たちほとんどどプロじゃん!おめはアマアマなのによ!」

取 柿

「ごめんなさい。」
「そんでチラシデザインをこれまた1期生の西牧さくらさんに頼んだそうで、なかなか良いよね?俺好きだよ、こういう絵。」

取 柿

「ど、どうも。」
「あ、あと問い合わせねットで『さばれこびれ』って検索すりゃひっかかるから。映画に興味ある奴は見に行けばいいさ。最後に何か言いたいことは?」
取 柿 「前売り800円、当日1000円です。」
取 柿 「汚っ。」

「働くこと」について語る



藤原雄生 (3回生)
公務員

宮城野を卒業してからまもなく4年、ということば卒業してからすぐに就職した私にとっては、働き始めてからまもなく4年が経つことになりました。考えてみれば共に卒業した同級生達もこの春に大学を卒業して働き始める方が大勢いることでしょう。そういうタイミングだからかどうか、私に働くことについての記事の依頼が来ました。

さて、初めて就職するにあたって、「自分にできる仕事だろうか?」「仕事を覚えられるだろうか?」などと心配される方々もいらっしゃるでしょうから、一応は4年間働いた身として、何かアドバイスなり、心配や緊張をほぐせるようなことを、と思いつき、とちと書いてみました。大したものではないかもしれませんが、一つ目は、初めて出勤する日にいきなり仕事を頼まれることはないで、焦らず仕事を覚えましょう。当然ですが、職場の人にも新人

であるという前提で接してきますので、甘えてはいけません。が、事務手引書のよくなものや、先輩の仕事を眺めながら焦らずに仕事を覚えれば大丈夫です。多くの場合は新入社員研修などというのがあるので心配はいりません。

2つ目は、体を大切に。これは体験談です(笑)。環境も変わって、仕事のプレッシャーもあつたのか、私も仕事を始めて2ヶ月目に体調を崩してしまい、完治するまでに2週間くらいかかりました。慣れるまでは健康的な生活を心がけましょう。

以上2つのことしか思い浮かびませんでした。参考になりましたでしょうか? 「ならねーよ」という声が聞こえてきそうです。すみません。

と、ここまでとりとめない文章を書いてきました。が、仕事をしてみて感じることは、「働くというの悪くないかな」ということです。残業したり、忙しかったり、うまく仕事が進まなかったり、お客さんからの電話をとつたら苦情だったり、苦情ならまだマシで怒鳴られたり、コンチクショウと思うこともありすが、それも仕事のうち。給料日になれば忘れます。メゲずに頑張ります。それではくれぐれもお身体には気をつけて、仕事、勉強、遊びに励んで下さい。

将来の自分



高橋美琴 (3回生)

宮城野を卒業して4年。高校時代の友達は就職だ、進学だと慌たらしい。私はと言えば残り2年。今からようやく「臨床」といって病棟に出る実習が出来る学年になる。それも1月末から3月中旬まで週2・3科目の移行試験をクリアすれば、の話。つい目先の問題にばかりとらわれてしまい、将来の自分について考えることを忘れてしまいがちだったが、今回この原稿依頼を受けたお陰で機会を得た。

私は医師・臨床心理士・学校の先生の3つで何になりたいか考えていた。学級崩壊とか不登校とかの問題から、子ども達の精神面や親の教育のサポートをした

指した。そんな大層な考え(自分で言うのも変だけど)もついつい忘れて楽な方向に流れ、いつも「60点取れば良いよねー」なんて思ってしまう。ああ情けない…。言い訳ではないけれど、医師・医学部生といっても所詮1人の人間。弱い所も沢山あるもの。けれど、本当に大切なこと、人を慈しむ心は常に忘れずにいたい。また、これから生涯の目標としては冷静沈着な頭、忙しくても多少は無茶出来る健康な身体、向上心、というものを鍛えていくことが挙げられる。

近頃、医療ミスに対して世間が敏感になり、不信感を抱いているけれど、みんな医師を目指した初心に戻ったらどうだろうと最近思う。去年の大晦日に「ラストサムライ」を観た。単純で申し訳ないけど、人間って信念を持っていると強いと思う。目の前の患者さんを救いたいという強い意志さえあれば些細なミスは減らせると思うのは私だけ？何か良い案があれば教えて…

宮城野は『変』なのか



下山貴之 (3回生)

「宮城野？ ああ、あの変な学校ですか？」と、人から言われた。聞き慣れた言葉だが、相変わらずというべきか、宮城野はまだ「変」と言っておけば間違いないという共通認識が持たれている。以前に比べれば、宮城野を知る人が増えた。だが「変」を覆すには、もう少し時間を要するようだ。

なぜ「宮城野は変だ」と言われるようになったのか。開校当時マスメディアを通じて、「新しいコンセプトのもとで誕生した高校」として紹介された。この時点では、「他校との差別化」を示す上で問題はなかったように思う。しかし、宮城野について紹介される事柄が増えると、「宮城野は変だ」と総括されてしまった。

情報を取捨選択していった過程に、根があるのではないか。「他校と違うから、宮城野は変なんだ」と単純化・一元化されたのならば、残念としかいえない。人の一

生に少なからず影響を与える高校時代を、「変」の一言で片付けられてしまうのは、納得のいかないところである。

宮城野は現在も受験生に高い人気を維持している。宮城野を「変だ」と言う人が、「宮城野に入りたかった」と言うくらいだ。このことの方が「変」だと思いが、悪い意味で受け取られていない分、救われている。だが望んだことではないにせよ、いつまでもこれにぶら下がり続けるのはどうか、という気もしてくる。

宮城野の同窓生に、「他校と比べて変だなあと聞いても、多くは「否」だろう。同時に複数の高校に通い比較することはできないし、何を以って「普通と変」を決めるのか。こんなことを考えるのはナンセンスだ。「宮城野は変だ」という認識が予想外に独り歩きし、現在に至っているというのが本音だろう。

「宮城野は変だ」という認識を改めうる原動力は、同窓生に他ならない。宮城野卒生は他校卒生よりも母校好きが多い。年々同窓生が増えていくことが、宮城野にとって好ましい流れになることを願うばかりだ。

同窓生



「二十歳に
なるにあたって」

5 回生 原田 薫

早いもので、宮城野を卒業してから2年が過ぎようとしています。卒業後、北海道の大学に進学した私は、幸せな事にとっても充実した日々を過ごす事ができています。しかし、今の生活に何ら不満はないはずなのに、時々「今」を宮城野時代と比べてしまう時があります。皆さんはそんな経験がありませんか？

例えば、「宮城野」という空間で多感な高校時代を過ごした私にとって、何もない状態から何かを始めるといふ行為はいつしか当たり前のものとなつていきます。しかし、大抵の人にはそのような経験がありません。また、高校時代から宮城野はどこか一風変わっているという事を薄々感じています。自分が「宮城野」という枠から出て初めて、部活や修学旅行がない、体育は男女共修など宮城野の特異っぷりを実感しています。

このような恵まれた環境、そこで出会った友人達と離れて2年、私自身その頃と何も変わっていないつもりでも、あの頃見えていたものが見えなくなつた今の自分と比べると、変わつたのかなあと思わざるを得ません。「思い出は美化される」と言いますが、そのせいでではなく、悲しい事ですが自分の心が荒んでしまつたように感じています。

しかし、宮城に帰省して宮城野の仲間と会うと「変わってないねえ」と言われます。逆に、私もみんな変わつてないなあと思います。「原田薫」という存在の全てを受け止めてくれる仲間に出会い、私を育ててくれた宮城野。ここで学んだ見失いがちだけれども大切なたくさんの事を、いつまでも忘れずにいる大人になりたいです。



「上も前も
足下も見よう！」

6 回生 佐藤 大輔

いやあ仙台は寒いですね！でもやっぱり仙台はいいね！バイトに追われる中、短期ながら東京から帰って来た甲斐があるな、とこたつの中で思う正月であります。

さて俺は今、小・中・高と過ごした仙台を離れ、東京のダンスの専門学校に通っている。なぜこの進路を選んだのか。単純にダンスが大好きで、ダンスで仕事が出来たらいいなと思つたからである。実にシンプルで他愛も無い動機だけれど、実際に誰もがその希望、自分のやりたい事をやりたいという希望が叶うとは限らない。だから、今こうして自分の好きな分野に集中してとことんやれる環境を、とても幸福に思つてやまない今日この頃である。

まあ好きな事だけやつてればいいってもんじゃない。

俺達6回生が学び舎を単立つてから早1年の月日が流れようとしているが、みなさんはどうお過ごしだろうか。夢や野望や目標を見つけたらどうか。偉そうに語つた俺自身も、まだまだ達成には程遠いけれど。

ここで1つ宣伝！今年3月27日に下北沢の北沢タウンホールにて、俺の専門の第2回公演があります！なので東京にお越しの際は是非足を運び下され！では。



始まりは卵か鶏か？
〜愛蘭編〜

6 回生 小野寺 弥嘉

「くあっ！」と大勢の人に追いかけてられる気分になる時ってありませんか。私は忙しい時いつもそんな気分になります。

ちょうど2週間前も100人くらいに追いかけられました。バスポートのスタンプを入国1週間以内で取らなければいけないという結構ピンチな状態でした。ピザオフィスに行く度に「あの書類が足りません」と言われて出直し。書類を探し、作成して…。4回目です。やっとゲット！前回スタンプを取つたときも直前でしたが今度ばかりは本当にダメかと思いましたが、私が追いかけることもしばしば。去年の夏イタリア旅行をした時は、1週間くらい前から楽しみに夜も眠れない程。渡航先は記録的な猛暑。40℃近くの気温の中、重いリュックを背負いイタリアの町々を歩き回りました。目に映る物すべてが新鮮でまるで幻想の絵の中にいる感覚。美術館巡りも最高で、夢の中で過ごした1週間でした。

現在のイタリアンでの生活はすべて自己責任で辛いことも多々あります。しかし、それがわからなくなるくらい感動的で楽しい事もたくさんあります。追いかけられたり、追いかけて。心の中の広いグラウンドの中で追いかけてっこしているみたいに、ぐるぐる回りながら経験値を溜め、レベルアップしている毎日です。



中段でピースをしているのが本人

「校友・交友」

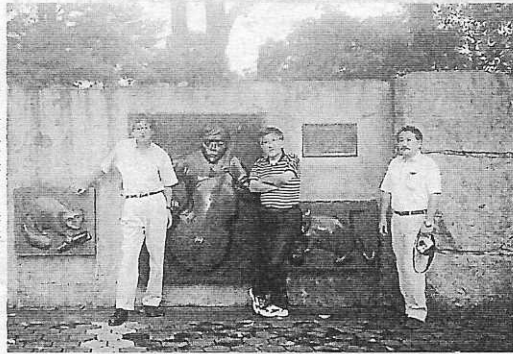
日比野 修

校友とは、同じ学校に学ぶ友、あるいは同窓の友のことであるが、私の場合は大学時代の友人との関係が最も強く、長い。大学の教養課程の語学クラスで出会った4人の友人である。その4人は東京・千葉在住で、仙台とも近く、交友関係を続けている。

昨年8月下旬にも花巻、遠野を旅行した。写真はその時のものである。語学クラスには彼らの他にも、年賀状のやり取りくらいだが、関係を保っている。語学クラスが3年前に、四半世紀ぶりにクラス会を東京で開いた。このクラス会で、新たな付き合いが始まったりもした。今回は還暦の60歳の時というところになった。高校時代の友人とは同窓会報などで情報が入ってくるので、接触が容易である。クラス会も定期的に行って

いる。母校が100周年を迎えた時には、私の学年の同窓生が100名ほど温泉に1泊して盛大に同窓会を開き、100周年を祝った。このように、私の交友関係は、校友関係が主である。さて、宮城野高校はクラブがないなどで、縦の人間関係は他校より少ないかもしれないが、同学年の横の人間関係は強いものがあると思う。卒業すれば皆、宮城野高校の同窓生である。様々な有意義な校友関係を築いてもらいたい。

先生



日比野先生(左)と校友



「楽しさと苦しさを併せ持つ充実感」
佐々木 秀男

本校に赴任し今年で3年目。昨年の美術科3年次に引き続き1年次の担任をしている。進路について悩み続けていた卒業生(美術科6年生)も少しは落ち着いたかなと思いきや、最近、理系に進みたいと言いつつ浪人生や、大学を受けなおしたいという大学1年生が突然あらわれ内心慌てている。「理系文系の垣根を乗り越え文化の全体像に迫ってみろ」

「よく考え、自分で決断したのであれば、いいじゃないか、頑張れ」とは言ったものの不安は尽きない。確かに十代という年齢からすればこの試行錯誤は大切なことで、ささやかでも自分の生き方、価値観、世界観を時間がかかっても見つけられれば幸せである。ただ果たしてそのような自問自答から得た結論なのか?見守りたいと思う。1年次生はというとまだまだ無邪気な進路についても曖昧な生徒が多いが、中には美術で身を立てたいと真剣に考えている者もいる。もちろん中学の段階で美術科を選んで入学してきた生徒であり、そう考えるのも当然のことのように思うが、美術を取り巻く環境は想像以上に厳しい。実際、美術をお金儲けや、食べていく手段として考えている作家は少ない。例え作品が売れなくても美術を自分の天職として信じ、好きだから、これこそ自分を生かす道だという理由で続けていることが多い。自分の適したものを自分の好きなことを模索しながら、厳しくはあるがしぶとく続けていくうちに道が開けてくるのである。

今、日本文化は大きな危機に遭遇していると言われる。それに怯まず、まずは「社会」とつながりを持ち、自分自身が「楽しさと苦しさを併せ持つ充実感」を味わいたいと思う。

売店インタビュー



高橋里子さん

今回、元美容師で現在は宮城野高校の売店で働いている高橋さんに編集委員でインタビューを行い、このような内容のお話を伺ってきました。

まず宮城野高校に初めて来た時は、これが本当に高校かと驚いたことを覚えています。自分たちの考えていた高校のイメージとはだいぶ違って、むしろ大学に来たような感覚でした。部活がなかったり、派手な服装の子が歩いていたり、ただそういったものもこの学校の個性なのだと思うようになった時には、自分もすっかり宮城野高校に溶け込んでいることに気づいたのです。

また今年は車椅子の生徒がいるのですが、その子の頑張っている現状を、同じ学年、学校としてもっと知って、ひとりひとり考えてみてほしいと思います。そうすればもっといい高校になるはず。それと最近では在校生の中で人生相談をしに来る生徒もいて、学校全体が落ち込んでいるように感じるので、卒業生は宮城野の良さをもっと伝えてほしいです。

他にも自分は過去に、センター試験前のクラスのホームルームに招かれたり、1回生の生徒からお歳暮をもらったり、いろんな楽しい経験をしてきました。売店の仕事は大変ですが、遊びにきた卒業生や教育実習生として戻ってきた生徒に声をかけられると、とてもうれしくやりがいもあります。今後もずっと続けていく予定なので宮城野高校を訪れる際は是非声をかけていってください。

と、このように語って下さいました。お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

「結婚して思うこと」

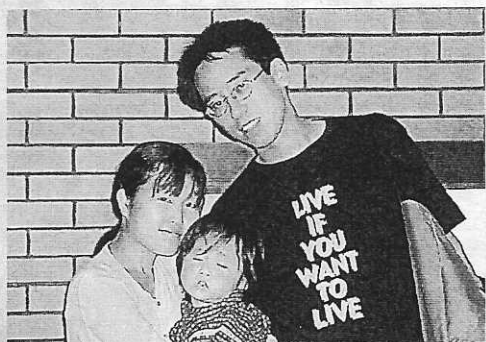
『結婚して思うこと』

1 回生 狩野 真知子 (旧姓及川)

結婚して変わったことは、名字、住家、などいろいろあるが、私が結婚して“変わった”と思うのはそれらではない。家族の中での自分のポジション、私にとっての大きな変化はこれである。

私は昨年、夫の実家である秋田県に夫と娘3人で引越してきた。それまではアパートで3人で暮らしていたため、娘に「ママ」と呼ばれてもそれが当たり前前と感じていた。娘にとっては私と夫以外に頼れる人はいないのだから。しかし、引越してきて義父母や義祖父という家族が増えた今でさえ、泣く時や眠い時には私の元へくる。このような時、私は自分の役目とそこから切り離せない責任を感じる。

今思えば、結婚する前の自分は未っ子で、家族の中にいて責任を感じる場面など無いに等しかった。それは、どんな時でも父や母が私の分まで責任を負い、私をフォローしてくれていたからだろう。だとすれば、守るべき存在ができた今、かつて私が家族にもらったように、今度は私が娘を導き守っていかなければならぬ。家庭人としてまだまだ未熟な私たちだが、幸



運なことに義父母、義祖父という頼もしい存在が身近で支えてくれている。それぞれのポジションは違うが、その言動から日々学んでいる。
だが、それは決して義父母からだけではない。思いがけない場面でも娘の成長から気づかされることも多い。高校の時に描いた将来は自分ひとりしか視野になかったが、家族がいることで考えていたより充実した生活になっっている。
当たり前だが、結婚は自分ひとりだけの生活ではない。だからこそこれからも家庭の中で互いに影響し合い、成長していけるような関係を築いていけたらと思う。

お知らせ

実行委員を中心に第3回同窓会総会の準備を進めておりますが、平成16年度内の開催を予定しています。前回は夏に開催しましたが、今回はそれが難しい状況です。詳細が決まり次第、宮城野高校同窓会ホームページや案内状などでお知らせしますので、何卒ご容赦下さい。

宮城野高校同窓会公式ホームページ <http://www.miyagino.org>

また同窓生に移動やお悔やみなどがありましたら、同窓会事務局までお知らせ願います。

同窓会事務局メールアドレス web@miyagino.org

編集後記

たかが4年、されど4年。そう感じさせる経験だったと思います。【下】
今回は第6号から今回までの作成期間が短くて困りましたが、頑張りましたっ！編集委員の集大成を見て下さい(笑)【小】
こつこつ冊子の編集は初めてでしたが、「たんぼぼ」を手にとった人に楽しく読んでもらえたらいいな、と思います。【残】
宮城野の貴重なタテのつながりを活動を通して実感しました。【片】
皆さん、お忙しいなか、御苦勞様でした。【堀】

決算書

平成14年度 宮城県宮城野高等学校同窓会 決算書

(単価:円)

収支対照	収入額	支出額	残額	摘要
	9,137,226	787,821	8,349,405	

■収入内訳

項目	予算額	決算額	増減	摘要
会費	1,512,000	1,519,200	7,200	@1,800*844
入会金	280,000	284,000	4,000	@1,000*284
繰越金	7,263,813	7,263,813	0	
雑収	9,187	70,213	61,026	卒業生返金残金・預金利子
合計	9,065,000	9,137,226	72,226	

■支出内訳

項目	予算額	決算額	増減	摘要
1 総務費	570,000	4,720	-565,280	
(1) 会議費	30,000	0	-30,000	
(2) 旅費	100,000	0	-100,000	
(3) 需用費	350,000	0	-350,000	
(4) 通信費	30,000	1,040	-28,960	連絡用切手・はがき
(5) 慶弔費	50,000	0	-50,000	
(6) 雑費	10,000	3,680	-6,320	会費納入督促用切手
2 事業費	8,300,000	783,101	-7,516,899	
(1) 総会費	350,000	207,925	-142,075	
(2) 会報発行費	480,000	347,032	-132,968	会報印刷・送付用切手
(3) 名簿編集費	100,000	0	-100,000	
(4) 支部助成費	0	0	0	
(5) 卒業式補助費	300,000	228,144	-71,856	卒業証書ホルダー
(6) Webサイト費	70,000	0	-70,000	
(7) 積立費	7,000,000	0	-7,000,000	
3 予備費	195,000	0	-195,000	
合計	9,065,000	787,821	-8,277,179	

監査の結果、帳簿並びに諸書類ともに、正確かつ適切に処理されていることを認めます。

平成15年12月4日

宮城県宮城野高等学校 同窓会 幹事 佐々木 千聡 松本 明子

